

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月
学校法人 東京内野学園
東京ゆりかご幼稚園

1. 本園の教育目標

- (1) 集団の中で自他を尊重し、大ぜいの人となかよく楽しく生活できる社会性を育てる。
- (2) ことにあたり、意欲的に行動できるこどもを育成する。
- (3) 基本的な生活習慣態度をしっかりと身につける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領、幼稚園施設整備指針を踏まえ、日常の生活や遊び、活動を通して引き続き「主体的、対話的で深い学び」への理解の深まりと実践の定着を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園庭と室内との相互性・連動性を図る。	B	<p>園児の主体性や選択性を尊重しながら、園庭と室内とで遊びや活動が分断されることなく、よりシームレスな関係が維持できるよう、相互性と流動性を意識した環境構成と援助を目指した。</p> <p>具体的には、自然物の室内への持ち込みやコーナーの設定をしたり、年中・長の各クラスに図鑑20巻セットと移動式本棚を購入し、テラスや園庭に図鑑などを持ち出すことで、自然とのふれあいをきっかけに探求的な学びへの繋がりをより円滑に行えるようにした。また、園庭での拠点作りとして、テントを数カ所に設置し、観察対象を落ち着いて図鑑で調べたりすることができるようにした。</p> <p>園庭遊びと室内遊びの連動性や繋がりをより意識していくことで、保育全体がより流動的になる傾向が実感できた。例えば園庭で興味を示した木、葉、実、土、石などの素材が保育室前のクラスガーデンに飾られたり、採集した生き物を室内の飼育環境で飼育、観察する機会が徐々に増えるなど、室内での活動や探求的、創造的な学びに繋がることで、本園の豊かな園庭環境をより有効活用していく兆しが見られた。</p> <p>また、広大な園庭での遊びや活動と、保育室との往來を円滑に行うための保育者同士の連携やサポート体制の重要性を鑑み、新たにサポートスタッフが加わった。</p> <p>一方で、学年に応じた取り組みに配慮していく必要性や、活動を充実させるまでのプロセスを無理せずに着実にやっていく必要性も感じた。</p>
2	幼小の接続と地域との連携	A	<p>令和4年度に実施した「架け橋プログラム」の研修以降、連携小学校である七国小学校との連携を深めることができた。例年の年長児学校訪問や、接続時の情報交換に加え、今年度も、担任教諭の方々にお越し</p>

			いただき、日常保育に参加いただいた。 また、1月にはお茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生の研修会に、校長先生以下複数の先生方にご参加いただき、「A1に負けない力、～遊びを通して非認知能力を育てる」について共に学ぶ事ができた。 更に、昨年度より始まった保・幼・小・中・高・大・企業・地域団体等で構成される「七国学園都市構想」に積極的に参画する中で、各団体との連携を深め、子ども達の健やかな成長を見守る機会となった。
3	低年齢向け環境の充実	A	低年齢の遊具をはじめとした環境の充実を図るため、室内では生活に必要な棚や机、椅子の充実、遊びに必要な教具・遊具の新設を引き続き行った。 満3歳児に加え、2歳児の保育や1歳児親子クラスが開設されるに伴い、低年齢の遊び環境の充実や、低年齢児向けの「通年園庭開放」をより利用しやすくなるよう、拠点の整備を図った。 親子で過ごすことができる空間を引き続き創造し、充実させていきたい。
4	八王子市すくてく通園事業への参画	A	八王子市が取り組む未就園児誰でも通園制度「すくてく通園事業」に積極的に参画し、これまで行ってきた1・2歳未就園児クラスの充実を図った。特に満3歳未満児が安心して通う事ができるような体制や環境を作ることができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、「主体的、対話的で深い学び」への理解が深まり、実践が根付きつつあると思われる。一方、1で言及したような課題も明確になった。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園庭と室内との相互性・連動性の促進	これまで行ってきた園庭と室内との相互性、連動性を促進させ、人的にも物的にもよりシームレスに往来できるよう環境構成を図る。
2	幼小の接続と地域との連携の促進	八王子市のスタートカリキュラムを踏まえ、連携校との架け橋プログラム策定に向け意見交換や調整を行う。
3	自然体験とICTの連携可能性の検討	園庭での様々な自然との関わりの中で、探求的、創造的なアプローチの一つとして、タブレットやスコープカメラなどを使用したICTとの連携可能性について検討する。
4	誰でも通園制度を見据えた八王子市すくてく通園事業への参画	令和6年度に導入した「八王子市すくてく通園事業」を充実させ、令和8年度に本格施行の国の「誰でも通園制度」に向けた基盤整備を行う。未就園児が通いやすい体制の検討と、教育の質の維持との両面を意識して対応する。

6. 学校関係者評価委員会の評価（大学准教授、保護者、地域の方などで構成）

- 様々な発見が日常的にできていて凄い。
- 自ら発見することもあるが、友達と過ごす中で様々な刺激をもらえることもあると感じる。
- 遊びや生活を通して、豊かな教育、体験ができています。
- 外と中のバランスが良い。
- 保育の質を上げられるように考えられている。
- 保護者のみならず、現在のように様々な方面に発信していくことで、日本の幼児教育や子どもの環境に関することが変わってくると良いと思う。
- 保護者の方や地域との連携も資源の一部だと思った。
- 図鑑の導入について
 - 図鑑は気になったことを直ぐに調べられる良さがある。
 - 自宅でも図鑑を持ち出し、見つけた虫を調べ、正解が見つかることも嬉ぶ様子があり、園での活動が家庭に繋がっていると感じる。
 - 来園したときに、我が子がクラスにある図鑑を見せ、買って欲しいとお願いするほど図鑑が大好きになった。
 - 1 クラスに 20 種類の図鑑があるのは、他園ではなかなか見られない。
 - 女性が多い保育現場は絵本が充実しているが図鑑は少ない。科学的な興味が足りないのではと感じることがある。
- 併設の小規模保育所と幼稚園との関係性について
 - 幼児と乳児にとって、園庭でつながる場所があることがとても良い。
 - 園生活の違いはあるが、小さい子との関わりがあると、小さい子を労わったり、大きい子に憧れるなど、両者にとって良いと感じる。
 - 年少にとっても自分達より小さい子がいることが良い。
 - 生活の流れの違いがあるが、日常の環境の中にいることが良い。
 - 保育所から幼稚園へと、人生の土台作りが大きく変わってくる。